

(佐々木注)1997年6月12日作成

原題「連合クラス会(9年)」原文はB5版2ページ。

以下、原文をそのままA4版に変換し、欄外にページを付与。

連合クラス会平成9年度大会祝辞

「連合クラス会（9年）」

水交会の中村でございます。盛大な連合クラス会平成9年度大会誠にとおめでとうございます。こうして大先輩の方々のお元気な顔を拝見することは何よりうれしいことである反面、毎年お目にかかってきた方のお姿が少しづつなくなることは、人の世の常とはいえ寂しいことでございます。

申し上げるまでもなく、水交会と連合クラス会は表裏一体ともいふべき関係でありまして、水交会6000人の会員のうち4割以上の方が連合クラス会に属しておられ、連合クラス会を抜きにしては、水交会は成り立たないといっても過言ではありません。其の連合クラス会が誠に適切な運営により、連合クラス会でなくてはできない諸事業を見事に完遂されつつ、力強く水交会を支えていただいていることは、誠に有り難くまた心強く、この機会にあらためて厚くお礼申し上げるとともに今後ともよろしくお願い申し上げます。

ところで海軍関係諸団体いずれも会員の高齢化に応じ、いろいろ対応を考えておられますが、幸い水交会では、終戦時在校中であった75期以後各クラスなどの絶大なご協力により、ここ数年むしろ会勢を拡大して参りました。しかしそれも限界に近づいており、かねて推進してきたとおり、海上自衛隊出身者に逐次バトンを渡していく方向に進むほか、長く会を維持して戦没者の慰霊顕彰や海軍の伝統継承等の目的を達成する方法はありません。その為には今まで非公式に行ってきた海上自衛隊に対する支援協力を正式に会の目的の一つに掲げ海上自衛隊員や其のOBの人々の入会を促進する必要があります。それには水交会を厚生省と防衛庁の共同管理にさせていただく事が前提条件となります。このような寄付行為の改正や主管官庁の変更は大変難しいところ、74期の秋山理事長とこれを補佐する76期中村事務局長の非常な熱意と努力によりまして、今般其の実現について両省庁の基本的了承を得ることができました。

此の寄付行為の改正が実現しましても、それは今後のあるべき方向に向っての第一歩に過ぎず、土俵ができた或はいれものができたに過ぎません。これに内容を盛るためには海軍出身者と海上自衛隊員及び其の出身者との一体感をさらに醸成し、強化し、本当に心の通いあう関係としていくことが、何より重要と思っております。先ほど森永さんのお話で海上自衛隊員が海軍の人々を先輩と見ていることは大変嬉しいといわれました。もちろんそのような人もありますがそればかりではありません。先日壮行会を行い目下遠航中の防大を出た実習幹部がハワイのパンチポール国立墓地に参った所感のなかに「大昔の遺物というイメージしかない靖国神社や教育参考館、何百年も前のことのように考えていた日米戦争」という言葉がでてきます。現代の歴史教育を受けて育ったこのような若い人、前の軍は悪かった我々は全く新しいものを作るのだという志で出発した初期の防大出身者など多くの人がいるのが実状といえましょう。こ

れらを含めて一体感を持つようにならない限り私どもの狙いは達成できません。海軍出身者の中核ともいべき連合クラス会及び会員の方々のご理解とご協力を切にお願い申し上げます。

老兵は死なず消え去るのみとかいわれますが、今年になりましてからも玉串料の違憲問題、ペルー人質事件に対する政府の対応、教科書問題或いは依然として変わらぬ政官財各界の体質など、このままではいったい日本はどうなるのかと思わせられる状況に接しますと、安んじて消えるわけにはいかない焦燥感に駆られることでございます。私どものなし得ることはきわめて限られておりますが、せめて若い人々に平和や人権や個人の生命も大切ではあるが、時にはそれらを犠牲にしても守らなければならない価値が此の世の中にはあることを、しっかりと伝え残したいと思うこの頃でございます。

ここに重ねて此の大会をお祝い申し上げますとともに、皆様のご健勝を祈って祝辞と致します。